



会場の一画では第11代横綱不知火光右衛門顕彰会の「子ども相撲大会」とロアッソ熊本の選手らによる「子どもサッカー教室」が開催され、子どもたちはスポーツの秋に汗を流していました。

絵手紙作り体験では家族で参加している皆さんも。本物のからいもを手本に上手に書けたかな？

からいも館

コーナー

温かい「お姫さんだんご汁」は列ができるほど大人気

からいものツルを使ったクリスマスリース作りができるコーナーもあり、「上手にできました」



7リニューアルしたからいもくんは写真撮影の列ができるほど人気8バイクや車の展示9香ばしいにおい甘いにおいが会場をつつむ10遊具では子どもたちの笑い声11子どもミニバイク教室でのライダー体験

今年も大好評！「いも掘り大会」

会場の「いも掘り畑」では約4,000人がいも掘りを楽しんでいました。からいもオーナー制度を利用している人は約15～18Kg、当日申し込みの人は約5～7Kgのからいもが掘れて、お得に楽しめる内容になっています。持ち帰り用の袋をからいもでいっぱいにして、「来年も遊びにきたいね」。畑には笑顔もたくさんあふれていました。



1「Honda woods」連絡橋贈呈を行う下川所長 2大太鼓による迫力のオープニング 3子どもたちによるダンスの披露に拍手が鳴り止みません 4大津中学校吹奏楽部の奏でる美しい演奏 5バンドの演奏は力強い音を会場全体に響かせていました 6ステージイベントの合間に行われた絵手紙表彰式。作品はからいも館で展示され来場者の目を楽しませていました

すっかりとした秋晴れとなった11月12日。今年も「からいもフェスティバル in おおづ」が本田技研工業(株)熊本製作所の南側の一部で開催され、町内外から約2万5,000人が参加しました。今年で29回目、町の特産品「からいも」を見て知って味わえる、町を代表するお祭りです。ここでは魅力の一部をお伝えします。

秋を彩るからいもの祭典
当日開場前の午前9時、人気の催し「いも掘り大会」にスコップや軍手を身につけた人々がすでに長蛇の列を作っていました。
開演午前10時。ステージイベントのオープニングを飾ったのは、大津太鼓の皆さん。
その後、家人町長による主催者あいさつと本田技研工業(株)熊本製作所の下川(しもかわ)一郎所長より、同社が作った人工の森「Honda woods」をより安全で快適に使用してもらいたいと町へ連絡橋の寄贈

がありました。
また、18年前にこのイベントで生まれ、今年リニューアルした町のマスコットキャラクター「からいもくん」の誕生日をお祝いしました。
その後も、歌や音楽、ダンスなどさまざまな催しがステージに彩りを添えました。
また、からいもが存分に楽しめる「からいも館」、からいもを使ったスイーツコーナーや、飲食コーナーも。会場を包む香りに「食欲の秋」を存分に堪能できるイベントになりました。